

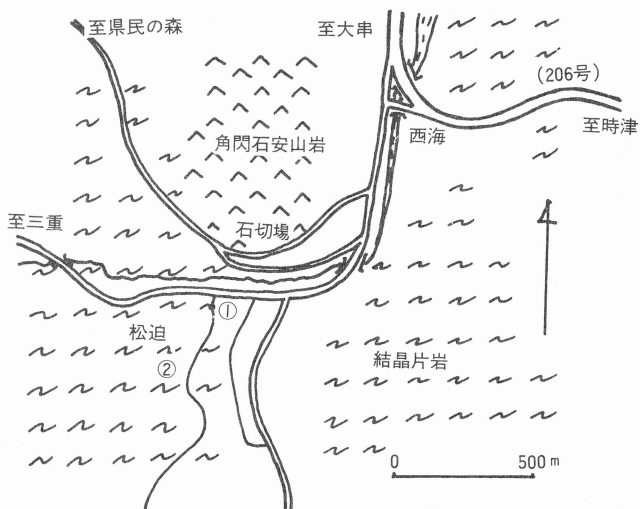
33. 村松・松迫の紅れん片岩

| | |
|-----|-----------------|
| 地域 | 西彼杵郡琴海町松迫 |
| 交通 | 長崎バス 西彼内海線、西海下車 |
| 地形図 | 大村 (1/50,000) |

西彼半島の内海線と外海線の南の分岐点に当たる西海でバスを降りるとノコギリ状に崩れた山が目につく。みごとな柱状節理の発達した白っぽい角せん石安山岩の石切場である。石材は主に間知石や雑石として切り出され、長崎周辺の宅地造成地などで利用されている。岩体はおそらく結晶片岩上に噴出して溶岩円頂丘を形成したものであろう。火山砕せつ岩の混入や流理構造は認められない。採石のためこの山は見るたびにその形が変わるような気がする。

西海川にそった道を南に1 kmほど登った松迫の①地点には、道路脇に昔マンガンを掘ったという洞がある。ここからは淡紅色をした結晶片岩である珍しい紅れん片岩が採集できる。このあたりの結晶片岩はN60°Wの走向で南西に20°傾斜する片理面をもった絹雲母片岩である。この付近のマンガン鉱床は村松型鉱床と呼ばれ、動力変成を受ける前にあったマンガン鉱床が変質して、ブラウン鉱、紅れん石、マンガン雲母の集合体となったもので鉱物学的には興味深い。この松迫の鉱山の外に、近くに戸根鉱山、崎山鉱山がかってにはあった。鉱床はいずれもブラウン鉱 ($3\text{Mn}_2\text{O}_3 \cdot \text{MnSiO}_3$) と石英を主とするものであり、このマンガン鉱床にともなって美しい淡紅色の紅れん石を含んだ紅れん片岩が見られるのである。

紅れん片岩は主として三波川結晶片岩中に産出し、秩父地方や四国の徳島から別子にかけて代表的産地がある。しかし外国にはあまりなく、日本でも限られた地域にのみ産し、秩父地方のように天然



松迫付近のルートマップ

記念物として採掘を禁止しているところもある。

紅れん片岩の美しい淡紅色は紅れん石の色であるが、絹雲母を多量に含んでいるため白っぽくキラキラ輝く。紅れん石は1～10mmの紅の針状結晶であり、顕微鏡で一度みるとその美しい淡紅色を忘れないであろう。

また、②地点にも家の裏に旧坑があり、付近にはこの岩石が散乱しているため採集することができる。

以上の紅れん片岩のほかにも点紋石墨絹雲母片岩中に薄く夾まれてくる紅れん片岩がこの北の方に切れ切れに分布している。

(西村暉希)